

栄養学科

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程・教育方法】

栄養士資格を取得し、管理栄養士国家試験受験資格が得られるよう栄養士法に基づく所定の科目を配置する。それぞれの科目は『食品衛生・フードサービスマネジメント系』『臨床・福祉栄養系』『公衆栄養・行政・教育系』に大別され、1年次を導入、2年次を基礎、3年次を発展、4年次を応用として位置づけ、講義・演習・実験・実習・校外実習（臨地実習）で学びを深める。

いずれの科目においても Learning Management System: manaba や Teams を授業に積極的に活用しつつ積極的にアクティブ・ラーニングを行うことにより、論理的思考力、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身につける。

『食品衛生・フードサービスマネジメント系』

食品学・調理学・食品衛生学および給食経営管理論を中心とした栄養管理に関わる「食品・給食」に関する講義や実験・実習科目を置く。

『臨床・福祉栄養系』

栄養管理の基礎として人体の構造と機能・疾病の成り立ちを学び、その応用としての臨床栄養学と、行動変容に繋げる栄養教育論に関する講義や実験・実習科目を置く。

『公衆栄養・行政・教育系』

社会・環境と健康において健康に関する制度や課題を学び、さらに公衆栄養学に発展・応用する講義や実習科目を置く。

また、選択科目の履修により栄養教諭一種免許状を取得できる。

『臨地実習』

『食品衛生・フードマネジメント系』の単位修得後、社員食堂や学校等の実践現場での学外実習である臨地実習Ⅰを通じて学内での学びを発展させて理解を深める。同様に臨地実習Ⅱ・Ⅲでは病院で、臨地実習Ⅳでは保健所・保健センター等で実習し、学内での学びの応用により理解を深める。これらの実習の前後には総合演習として事前・事後学習を行い、根拠に基づいた実践力を身につける。

『卒業研究』

4年間の学修の集大成として卒業研究を必修としている。卒業研究は3年後期に各研究室に配属され、全員が卒業論文発表会で発表し卒業論文を提出する。

なお、講義科目の学修成果は試験や課題レポートにより、演習や実験・実習科目の学修成果は課題レポート、ゼミ等における発表やディスカッションなどで評価する。各科目の具体的な到達目標および評価方法はシラバスに記載する。

【学修成果達成のための科目】

- DP1 食品衛生・フードサービスマネジメント系、臨床・福祉栄養系、
公衆栄養・行政・教育系、臨地実習、卒業研究
- DP2 食品衛生・フードサービスマネジメント系、臨床・福祉栄養系、
公衆栄養・行政・教育系、臨地実習、卒業研究
- DP3 食品衛生・フードサービスマネジメント系、臨床・福祉栄養系、
公衆栄養・行政・教育系、臨地実習、卒業研究
- DP4 臨床・福祉栄養系、公衆栄養・行政・教育系、
- DP5 食品衛生・フードサービスマネジメント系、公衆栄養・行政・教育系
- DP6 食品衛生・フードサービスマネジメント系、臨床・福祉栄養系、
公衆栄養・行政・教育系、臨地実習、卒業研究